

政務活動費活動報告（視察）

- (1) 出席者（会派名・個人名）
彦根市議会 会派 夢みらい
出席者 森田 充、小川吉則、戸崎 克司
- (2) 実施日： 8月7日(月)

【1. 調査の目的】

- (1) 本市における現状
彦根市子育て・若年世帯空き家リノベーション事業の実施
滋賀銀行旧彦根支店の活用提案
本町宿、芹橋二丁目足軽屋敷、辻番所などの古民家をリノベーション
- (2) 本市における課題
銀座商店街を中心とした各商店街のリノベーション事業及び再生事業
荒神山自然の家及び周囲の環境を活かしたリノベーション事業

【2. 調査地選定理由】

- (1) 調査項目：リノベーションまちづくり
- (2) 選定地1：静岡県沼津市『泊まれる公園 INN THE PARK』

【3. 調査結果】

- (1) 内 容
青少年の宿泊施設として利用されてきた「少年自然の家」の廃止に伴い、公募により選定された事業者により、公園一体型の宿泊施設「INN THE PARK」として、平成29年9月23日にオープンした。
民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設などを活用している。
既存の建物や周辺の環境を活かした新たな価値創造をめざした
公民連携事業の取り組みである。
また、一泊3家族が一棟約6万円で利用する事ができる。
観光施設として、年商約1億円の業績、年間約5,000人の方々が利用されている。
さらに、自然に囲まれたグランピング施設は、利用率約90%と人気がある。
関東(東京)のお客様が多く、近郊には富士山、伊豆、熱海などの観光地もあり、沼津市は交通の便も良く、交通の拠点ともなっている。
- (2) 考 察
沼津市ではリノベーションまちづくりとして、市内で増加する空き家や空きビル
空き地など、民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設・公共空間の活動事業を

展開して、U.I.J ターン人材による新たなコンテンツにより、さらなる人材やコンテンツを呼び込み、多くの市民によって楽しい街に生まれ変わることを目標とされている。

注目すべき点は、従来の行政主導のまちづくりと異なって、民間主導の収益性を兼ね備えた事業による『民間主導の公民連携型まちづくり』により進めているところである。また、民間都市開発推進機構と沼津信用金庫の出資により設立された『ぬまづまちづくりファンド』による支援及び金融機関の融資により、民間主導で事業を興し行政はこれと併走する仕組みとなっている。

事業者に対して事業費の補助をしなくとも、運営事業者自らのアイデアやノウハウを活かした事業が実現できる仕組み、資金の流れは彦根市においても検討すべきまちづくり事業あり、『少年自然の家』と規模や環境は違うが、荒神山周辺のリノベーション事業として参考となる施設と考えられる。

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

彦根市議会 会派「夢みらい」

出席者 森田 充、戸崎克司、小川吉則

(2) 実施日：令和5年8月8日（火）

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

彦根市では健康推進員により、「私達の健康は私達の手で」をスローガンに活動がなされており、ひこね元気計画21（第3次）～健康増進計画・食育推進計画～が、2019年度～2023年度で実施されている。

(2) 本市における課題

男女ともに運動を継続的に実施している人が目標値よりも低くなっている。また、睡眠で休養が十分にとれていないと感じる人が約2割おり、不満や悩み、苦労等によるストレスがある人が6割を超えている。

健康増進、食育推進をさらに進めていく必要がある。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

健康寿命をのぼそう！アワードを平成25年3月に受賞した藤枝市の、市民・事業者・行政が一体となった取組内容を調査し、本市の健康施策の参考とするもの。

(2) 選定地1：静岡県藤枝市

【3. 調査結果】

(1) 内 容

藤枝市は、静岡県の中部に位置し東海道の要衝として発展してきたまちである。人口は約14万人であり、高齢化率は31.1%となっている。

午前10時より、委員会室にて担当である健康企画課課長より説明を受ける。藤枝市では、平成23年度に「暮らしの基本」4K施策として「健康（Kenkou）」「教育（Kyouiku）」「環境（Kankyuu）」「危機管理（Kikikanri）」を掲げ、市全体で健康都市のまちづくりを推進してきた。「健康」と「幸せ」を合わせ“健幸“を進めてきた。

そうした中、平成25年3月に第1回健康寿命をのぼそう！アワード自治体部門にて「健康・予防日本一“ふじえだプロジェクト”」が厚生労働省健康局長優良賞を受賞し、『健康寿命延伸都市協議会』が発足。

「みんなで創る健康都市」とし、市民・事業者・行政が一体となって推進していく。

「守る健康」と「創る健康」とし、
守る健康

①高い市民の健康関心度

がん検診受診率が高い！

内臓脂肪症候群が少ない！

成人歯科検診率が高い！

②特定健診率の状況

③約 1,000 人の保健委員体制

市内 12 支部、約 1,000 人体制で活動する。自治会組織を基盤に、市民の
3 万人が経験者となる。

④高血圧対策を強化

創る健康

①無関心層へのアプローチ

“楽しい”“お得”の切り口から「健康」へ関心を持ってもらう

②アプローチ分野

運動・“楽しく歩く”運動習慣

休養・“こころ安らぐ”休養・睡眠習慣

食事・“賢く食べる”食習慣

歯や口・“口腔ケア”でお口の健康習慣

具体的な取り組みとして、

楽しく歩く運動習慣

①歩いて健康「日本全国バーチャルの旅」

記録用紙を用いて、全国のバーチャルの旅への案内を行っている。

②ウォーキングイベントの実施

③健康アプリ『あるくら』の作成 平成 28 年 10 月 22 日リリース

賢く食べる食習慣

野菜を食べて健康フェアの実施 平成 29 年～

こころ安らぐ休養・睡眠習慣

元気ふじえだ星空フェスの実施 令和 4 年～

ふじえだ健康マイレージとして、健康行動でポイントを貯め、協力店による割引等サービスを公費負担なしで行っている。また、この健康マイレージの Web システムを平成 25 年 2 月にスタートしている。

健康経営プロジェクトとして、健康経営の普及に行政が取り組んでいる。

〈健康経営とは〉

経営者が社員の健康を重要な経営資源ととらえ、戦略的な社員の健康づくりの

取組により、生産性の向上や価値向上などを目指す経営手法

行政が実施主体となり、商工団体や医師会の協力のもと、企業に働きかけて健康経営の実践プログラムを進めていく。

(2) 考 察

日本は平均寿命が世界のトップクラスである。しかし、誰しも健康で長生きを望んでおり、健康寿命が重要となってくる場所である。この健康寿命をのばす活動を、市民・事業者・行政が一体となり取り組んでいるのが藤枝市である。特に、市民の意識が高く保健委員制度にて年間約 1,000 人が活動しており、市民の 3 万人が経験者であるという実績は高く評価できる。担当部署の健康企画課は 4 名体制であり、専門の職員は 2 名となっている。事業費も決して多くない中で、数値的な実績も上げている。市民の意識が高く健康に積極的なこともあるだろうが、行政が具体的な施策を行い、様々な手法にて市民の参加を促していることが評価できる。また、事業者も取り込み“健康経営“の考えを示し、ただ言うだけではなくプロジェクトを立ち上げ、具体的なプログラムを多方面の協力を得ながら主導して進めている。

本市でも、「ひこね元気計画 2 1（第 3 次）健康増進計画・食育推進計画」が 2 0 1 9 年度～2 0 2 3 年度で進められているところである。この計画をより実効性のあるものとするべく、また第 4 次計画をより良いものとするよう藤枝市の取組が参考となる場所が多いにあると考える。

以上